

9月は防災月間

いざ避難

の時のために

台風や秋雨前線の影響で、大雨、洪水、暴風などによる自然災害が発生しやすい時期です。近年、大雨による災害が長期化・甚大化するケースが増えており、いざというときに素早く避難行動ができるよう普段からの備えが必要です。いざという時のために大切な5つのポイントを確認しておきましょう。

問い合わせ 防災安全センター ☎ 24・8150

1 日頃からの備えが大事！

自宅周辺の危険箇所や避難所を、洪水ハザードマップや土砂災害マップで確認しましょう。屋内でのけがや逃げ遅れ防止のため家具類の転倒や落下、移動防止や窓ガラスの飛散防止対策などもお忘れなく。また、避難場所や安否確認方法など、災害発生時の行動を家族で決めておきましょう。我が家の避難計画「マイ・タイムライン」を活用すると便利です。



マイ・タイムラインはこちら

2 非常持ち出し品の用意を

停電や断水に備えて日頃から非常持ち出し品や3日分以上の食料・飲料の準備・確認をしておきましょう。マスクや手指消毒液、体温計、ゴミ袋、スリッパなどの感染症対策品も忘れずに。

- 【必ず用意してほしいもの】
- 懐中電灯・ラジオ
 - 食料・飲料水
 - 救急セット
 - スマホなどの電話・充電器
 - タオル
 - 現金
 - 常備薬
 - 運動靴 ※履いて避難する
 - 感染症対策品
- いざという時には非常持ち出し品を持って避難してください。



3 最新の防災情報を収集しよう

テレビやラジオの他、インターネットや防災行政無線などを使って、台風の進路や大雨情報、河川の状態などの最新情報を確認し、早めの避難行動に役立ててください。

- 市ホームページ
ハザードマップや防災に関する各種情報を掲載しています。
- 市公式防災LINE
@komatsu-city
- 市公式Twitter
@komatsu_city
- 市公式Facebook
「いよっ小松」で検索

- スマートフォン防災アプリの一例
- Yahoo!防災速報
 - NHKニュース・防災
 - Safety tips(多言語アプリ)



4 避難開始は警戒レベルで判断

「警戒レベル」とは災害発生時の危険度と、とるべき避難行動を、皆さんに直感的に理解していただくための情報です。

レベル1とレベル2は気象庁が発表する大雨・洪水・高潮注意報にあたり、災害への心構えを高め、自らの避難行動を確認する段階です。

「警戒レベル3」の高齢者等避難が発令された場合は、高齢者や障がいのある方など避難に時間のかかる人やその支援者は危険な場所から避難しましょう。それ以外の人は避難の準備をし、危険を感じたら自主的に避難してください。

そして、「警戒レベル4」の避難指示が発令された場合には、対象となる地域住民の方々は危険な場所から全員避難する必要があります。

「警戒レベル5」の緊急安全確保はすでに災害が発生・切迫している状況です。命を守る最善の行動をとってください。

警戒レベル5になってからでは、安全な避難が難しい場合があります。地域の皆さんで声を掛け合って、早めの避難を心がけ、レベル3、レベル4の段階で安全・確実に避難を終えましょう。

5 避難所の開設情報と感染症対策

市内で開設している避難所や混雑度がリアルタイムで分かるサービス「VACAN(バカン)」を提供しています。

更に、避難所の位置や経路、現在地からの所要時間なども分かるので土地勘の無い人でもスムーズに避難できます。



また、避難所では、感染防止対策のためマスクの着用や手指消毒、毎日の体調管理にご協力をお願いします。

避難生活が長期にわたる場合には、間仕切りや段ボールベットを設置して感染防止や衛生管理を行います。発熱者については、一般の避難者とは別の専用スペースに避難していただきます。



Interview

自分ごととして 気に留めることが大切

防災エキスパート 東友起子さん

「避難」とは「難」を「避ける」ことで、避難所に行くことだけが避難ではありません。

安全な場所にある親戚や知人宅へ行くことや、安全なホテル、旅館を利用することも避難です。

自宅でも土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域に該当していない。浸水深より居室が高い位置にある。水が引くまで食料などの備えが十分という場合は、自宅

に留まり安全を確保することも有効です。

必要な防災情報も、実はインターネットやSNS、テレビなど様々なところで流れており、日常的に触れています。ただ受けとる私たち一人ひとりが気に留めていないケースが多いと思います。

自分たちの所では災害は起きないと思わずに、自分ごととしてこれらの情報に注意を払うことで、いざという時に適切な行動をとることができるのです。

避難訓練などにも日頃から参加して体験してほしいものです。年一回だけでも出ると出ていないのでは全然違います。

そういった積み重ねが、自分の命だけでなく、周りの人の命も助けることにつながります。

